

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.308

August 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

会員相互の情報交換のために

神戸日独協会は、情報発信の速報性と多様化、会員相互の情報交換、地域との連携などに応えるべく、5月から「ホームページ」を刷新しました。ホームページ担当の日下理事を中心に現在もページの充実に努めています。

新しいホームページの特徴の一つとして、神戸日独協会の日常の活動はブログ形式で紹介し、神戸日独協会の“今”を発信しています。その一環として協会では協会の活動のみならず、会員相互の情報交換のために、「会員からのお知らせ」記事カテゴリを新設しました。このカテゴリでは協会会員から会員への情報を発信します。

掲載要領

1 情報の内容

- ・協会会員のドイツ理解および日独交流、協会員の相互交流に資するもの
- ・催し物の案内は、協会会員の主催および共催するもの
- ・物品の販売など営利を目的としないもの
- ・個人のプライバシーを侵害しないもの

2 250字以内の案内および写真・チラシなどの資料

3 掲載期間

- ・投稿から1か月

4 掲載内容についての責任は情報提供者に帰します

5 記載の体裁については協会に一任するものとします

これに伴い、同じ情報を会員宛にメールにても発信します。まだメール登録をしていない方はメールアドレスを協会事務室へお届けください。

今後とも神戸日独協会では会員の方への効果的な情報発信に努めていきます。

ドイツ語談話室

第152回ドイツ語談話室

日時：2016年7月16日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：新・旧の通信手段

今回の司会は井川伸子さんが担当し、まず、電信サービス開始以降の通信手段の変遷を振り返った。そしてインターネットの普及から、携帯電話、スマートフォンと急激な広がりを見せている現状より、その功罪を考えた。以下、参加者の発言の一部を下記する。

- 司会者が問いかけた所、参加者のほとんどが、ハンディなしスマートフォンを利用している。
- 自動車運転中のハンディ使用は禁じられているが、実態は多くの人が使っていて、とても危険である。自転車に乗って使っている者もいる。
- 街中で、また電車の中で、ハンディやスマホを見ている者もとても多く、Kopfuntergeneration (うつむき世代?)という語もある。
- 街中で、ゲームに夢中になっている連中も多く、アクシデントが絶えない。
- 今日氾濫している情報は、ほとんどが Junkinformation (くだらない情報) だけである。
- 人々は、これら情報に振り回されて、じっくりと考える時間が無くなっている。
- やはり、手書きの手紙が一番だ。特に悲しみの気持ちを伝えるには、手書きの手紙しかない。
- ドイツ人から貰う手書きの手紙は、判読が難しいものがあり、少し困った事だ。
- 近年の通信手段の発達は驚異的だ。これからの世代は、こうした通信手段に囲まれて育つうち、脳の中も変わってしまうのではないだろうか。
- 戦前の情報は、新聞かラジオに限られていて、検閲に通った物だけであったが、1945年5月9日の朝日には、ドイツが連合軍に降伏した記事があり、その中でドイツの再起を期待している。
- ある参加者の子供のころ、地方の村には電話が普及していなくて、庄屋さんが村の人々に知らせを伝達する手段として、口頭での連絡をして廻らされた思い出がある。
- ある参加者は、ボーイスカウトの頃、手旗信号で通信をしたのを思い出す。
- かつての日本では、手書きの手紙がごく普通であったが、今は稀な事となってしまった。
- テレビやラジオの番組は、ほとんどが、騒がしいだけのくだらないものばかり。しかも24時間流しっぱなしにしているのは、日本ぐらいではないだろうか。
- このドイツ語談話室は、月に1回、参加者が楽しく意見を伝達し合える貴重な機会である。

今後のドイツ語談話室の予定

第153回 8月20日(土) 14-16時 テーマ：夏の料理(おつまみ持ち寄りで、ビールを飲みながら歓談します。)

第154回 9月17日(土) 14-16時 テーマ：英国のEU 離脱

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 152. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 16. Juli 2016, 14 bis 16 Uhr

Thema: Alte und neue Kommunikationsmittel

Dieses Mal hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung und blickte auf die Veränderungen bei den Kommunikationsmitteln zurück, die diese seit dem ersten Telegrammdienst in Japan durchlaufen haben. Danach brachte sie das Gespräch auf die Vor- und Nachteile der heutigen Kommunikationsmittel, das sich rasch entwickelnde Internet, die Handy, Smartphones, usw. Von den Teilnehmerinnen und Teilnehmern kamen folgende Wortmeldungen zum Thema:

- Auf diesbezügliche Frage der Leiterin wurde klar, dass fast alle ein Handy oder Smartphone haben.
- Ein Teilnehmer klagte über gefährliche Autofahrer, die wider die Regeln das Handy beim Fahren benutzen. Auch Radfahrer gibt es, die so gefährlich handeln.
- Eine Teilnehmerin berichtete von einem neuen Wort, nämlich der „Kopfuntergeneration“. Die Leute haben auf der Straße, im Zug usw. die Augen immer nach unten auf das Smartphon gerichtet.
- Eine andere Teilnehmerin bemerkt viele Leute in der Stadt, die wie verrückt auf Computerspiele konzentriert sind und somit unter Umständen Unfälle verursachen können.
- Eine Teilnehmerin denkt, dass fast alle Informationen der heutigen Fernsehsendungen nichts als Junkinformationen sind.
- Ein anderer Teilnehmer findet es schade, dass die Leute wegen der Junkinformationen ihre Zeit vergeuden, die Sachen nicht gründlich überdenken.
- Eine andere Teilnehmerin glaubt, dass das beste Kommunikationsmittel noch immer der handgeschriebene Brief ist. Mitgefühl kann man nur durch einen handgeschriebenen Brief mitteilen.
- Ein Teilnehmer hat manchmal Schwierigkeiten, handgeschriebene Briefe aus Deutschland richtig zu entziffern.
- Ein Teilnehmer sprach an, dass die heutige neue Entwicklung der Kommunikationsmittel kaum mehr begreiflich ist. Die zukünftige Generation wird unter diesen Umständen erwachsen. Vielleicht wird ihr Gehirn anders sein als unseres.
- Ein Teilnehmer verwies darauf, dass die Quellen der Informationen vor dem zweiten Weltkrieg in Japan nur Zeitungen und Radionachrichten waren, die von der Zensur zugelassen wurden. Er hat die Asahi Zeitung, vom 9. Mai 1945 mitgebracht. Darin gab

es einen Artikel über die Kapitulation Deutschlands gegenüber den Alliierten. Der Artikel erwartete die Wiedererrichtung Deutschlands.

-Ein anderer Teilnehmer erinnert sich noch gut, wie er als Kind Botschaften an andere Dorfleute mündlich überbringen musste. Damals waren auf dem Land Telefone noch nicht üblich.

-Ein weiterer Teilnehmer erinnert sich, wie er als Pfadfinder mit dem Flaggenalphabet Nachrichten übermittelte.

-Früher war der handgeschriebene Brief ein normales Kommunikationsmittel in Japan. Heute sind solche Briefe eine Seltenheit geworden. Das findet ein Teilnehmer sehr traurig.

-Ein weiterer Teilnehmer findet fast alle japanischen TV- und Radiosendungen unsinnig und laut. Außerdem läuft dieser Unsinn 24 Stunden pro Tag. Ob das wohl nur in Japan so ist?

-Eine Teilnehmerin denkt, dass unsere monatliche „Deutsche Gesprächsrunde“ eine wertvolle Sache ist, da hier alle gemütlich direkt miteinander kommunizieren können.

Nächste Treffen:

Samstag 20. August 2016, 14 bis 16 Uhr, Thema: Das Essen im Sommer

(Wir besprechen das Thema bei einem Bier.)

Samstag 17. September 2016, 14 bis 16 Uhr Thema: „Brexit“ (Englands Austritt aus der EU)

「シュタムティッシュ」

日 時: 8月27日(土) 15時~17時

場 所: 神戸日独協会会議室

テーマ: 「ローテンブルク」

今回は、ドイツ旅行、特にロマンチック街道を巡るほとんどのツアーに組み込まれている中世の町「ローテンブルク」をテーマに取り上げます。城壁に囲まれた、童話の中に出てくるような「ローテンブルク」の見どころ、魅力などについてコーヒーなどを飲みながら歓談していただきたいと思います。「ローテンブルク」に旅行を予定している方も是非参加していただければと思います。

参加費: 一般 800円 会員 500円 (ソフトドリンク、お茶菓子付き)

当日受付にお支払いください。

申し込み: 8月26日(金)までに事務所までメール・電話・ファックスでお申し込みください。

シュタムティッシュに初めて参加して

会員 藤井 基

9年前の夏、ハイデルベルク出身の青年が神戸日独協会でのインターンシップに来日し、二ヶ月間我家を滞在先にして、協会に通いました。私が彼を迎え入れた理由は二つあり、一つは、当時ドイツ語を学ばねばならなかった私自身のために、彼から少しでもドイツ語を習得しようと考えたこと。二つ目は、以前よりドイツで私の行ってみたい所として、何故か、ハイデルベルクが筆頭にあったこと、であります。

一つ目については、彼は日本語を上手く話したため、ドイツ語を使うことがほとんど必要なかったため、私の目的は達成できませんでした。

二つ目に挙げた理由については、お土産に彼の地の日本語版ガイドブックを貰いました。それを見ながら、彼にその街についていろんなことを聞き、私の「ハイデルベルクに行きたい」という思いはさらに募ってゆきました。しかしながら、9年経った今も、その思いを果たすことは出来ていません。そんな折にこの度、「ハイデルベルク」と会報に記されていたのを見て思い切って参加してみました。

9年前、青年から仕入れた私なりのデータを基に臨みました。参加された方々には、旅行で何度も訪れた方、40年前の彼の地に思いを馳せておられた方、仕事でドイツに滞在中に行かれた方、盗難に遭われた方など…、ハイデルベルクに纏わるさまざまのお話を伺い、改めてこの街へ行きたいという思いが強くなりました。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

夏の「ドイツ文化サロン」について

7月と8月は夏休みなどでご家庭の行事が多かろうと思いますので、お休みさせていただきます。9月の例会については、次号会報にてご案内いたします。

行事参加感想

神戸市立外国人墓地見学会に参加して

会員 根木大助

いよいよ来年に迫った「神戸開港150年」に因んで GJG との共同企画として開催された神戸市立外国人墓地見学会に参加しました。参加者数は奈良日独協会、和歌山日独協会からの参加者も含めて19名でした。

梅雨の合間の好天に恵まれた7月3日(日)、当日は三宮バスターミナル(ミント神戸1階)から森林公園行きの神戸市営バス(25系統)に乗車し、トアロードを経て「海外移住と文化の交流センター」の建物の背後に続く急な坂道を揺られて再度ドライブウェイに入って約27分、再度公園で降車、そこから歩いて数分で広大な敷地(阪神甲子園球場3つ分)を有する外国人墓地の入口に到着しました。

現地でいただいたパンフレットや神戸市建設局公園部森林整備事務所の方の説明によりますと、神戸の外国人墓地の歴史は開港に先立つ1867年(慶応3年)のクリスマスに現在の東遊園地東側にあたる生田川尻の小野浜(現在の神戸市中央区浜辺通6丁目付近)で最初の外国人の埋葬が行われたことに始まります。当時の生田川はまだ付け替え工事(1871年完成)が行われる前で、現在のフラワーロードが生田川であったことを想像すると今の三宮付近の街の発展の経緯についての興味が湧きます。そして1868年1月1日(慶応3年12月7日)に外国人居留地が設けられたのち1898年(明治31年)その外国人居留地の日本への返還とともに小野浜外国人墓地の管理が神戸市に移り、飽和状態になっていた小野浜墓地とは別に1899年(明治32年)新たな外国人墓地として葺合村春日野(現在の神戸市中央区籠池通4丁目付近)に春日野墓地が造成されました。

やがて神戸港の発展とともに小野浜墓地には市街化計画、春日野墓地には狭隘化の問題が生じ、神戸市議会の決定を経て1937年(昭和12年)に再度公園の一角に公園墓地の造営が始まりました。しかし、翌年の阪神大水害やその後の第2次世界大戦のため工事は中断され、戦後の工事再開を経て1961年(昭和36年)10月に両墓地の再度公園への統合移転が完了しました。そして今日この墓地には約2500柱が埋葬され、神戸の地での永遠の眠りについていきます。

以前当協会理事を務められた田中美津子様が出版に携わられた「神戸のドイツ人 ー旧き神戸への回想ー」(2008年5月1日発行、原著者:オットー・レファート、訳・編者:田中美津子、発行:NPO 法人 神戸日独協会、制作:神戸新聞総合出版センター、印刷:神戸新聞総合印刷、神戸日独協会会報 Nr.77(1996年12月号)~Nr83(1997年7月号)にも掲載)を後日読み返してみると小野浜墓地に関する記述のところで、「この墓地には1868年から1898年までに亡くなった59人のドイツ人の墓がある。」とありました。最初の約30年余の外国人墓地を終の棲家とした多くのドイツ人の墓碑が小野浜から再度公園に移されているということです。勿論その後に神戸で最期を迎えた数々のドイツ人達もこの外国人墓地に埋葬されています。また、前記の著書に掲載されている1868年の「小野浜墓地 フランス水兵の墓」の写真からは現在の外国人墓地内の小野浜地区と称する区画にほぼ同様の配置で移転されたことが今回の見学で窺えました。

当日夕刻、神戸日独協会事務室に戻ってから「日独若者交流」についての懇談会が行われ、奈良日独協会からの参加者を中心に活発な意見が交わされました。帰りに神戸国際会館19階通路の南側に面した窓からかつて小野浜外国人墓地が存在した方向を眺めると、近代的な建物が整然と並んでいました。

一年間の海外留学を終えて

啓明学院高等学校2年 西口 陽向

私は2015年7月31日1年間ドイツのザールランド州に留学をした。たくさんの気持ちを背負いながら留学当日を迎えた。その中には楽しみ、期待という気持ちも勿論あったが、不安、恐怖、緊張といった気持の方が大きかった。

いざホストファミリーや学校に行くと想像以上の不安や緊張を覚えた。なぜならドイツ語を全く話せず、聞き取れず、理解できなかったからだ。その間、英語を使用する時間が長くなり、さらにジェスチャー等をして気持ちを伝えるしかできなかった。しかし、この状態が続くのは自分として悔しく、ドイツ語の猛勉強を始めた。それはただ机に向かってするだけでなく沢山のひとと会話をしてコミュニケーションを取ることや、ドイツのテレビを見ることだった。学校でも友達の輪に自ら入ることや、進んで自ら話しかけることを徹底した。その成果もあったのか年末まで大変だったドイツ語が年を明けると自ら使え、そして聞き取ることも少しずつ出来るようになった。ホストファミリーや学校の友達、先生方は私が困っている時いつも助けてくれた。

そんなホストファミリーとドイツの沢山の町やパリにも旅行することができ、学校のクラスの仲間とは一緒に修学旅行でアムステルダムに行くことができた。沢山の違う町でそれぞれの特徴を感じることができ全てとても良い思い出となった。

私は毎日ドイツでの生活が楽しかった。一度も日本に帰りたと思わず、毎日が充実していた。勿論いつも気楽ではなかった。沢山の高い壁を何度も乗り越えなければならなかった。しかし、私は負けず、「これが留学だ」と自分に言い聞かせ乗り越える努力をした。その努力が今の自分に繋がっていると思う。苦労や大変な経験を何度もしたが。楽しかった経験や嬉しかったことの方がとても多かったように思える。私が一番嬉しかった経験は、英語ではなくドイツ語でドイツの方々とは話ができ思いっきり笑えた時だ。その時私は改めて、「留学に来て良かったな」と思えた。

この一年色々な経験をした。しかし、それら全てが自分にとって良い財産になっている。どの場面でも常に積極的にいること、いつもチャレンジ精神を忘れないこと。この意識のお蔭で学校での授業でプレゼンテーションを2回ドイツ語で自ら進んですることが出来た。そしてドイツにいて日本を客観的に見ることができ、更に自分自身の視野を広げることができたのではないかと思う。自分の弱い部分、逆に自分の強い部分を改めて実感することも出来た。

この留学で私は大きく5つの事を学んだ。自分自身を信じること、自分の弱い部分に勝つこと、もし失敗をしても後ろを振り返らずしっかりと前を向くこと、落ち込んだ時も自分は決して1人ではないということ、そしてチャレンジに失敗は無いということ。この素晴らしい経験を消してこれで終わらすことなく、これからの日本での生活、啓明学院での生活に生かしていこうと思う。そしてこの経験をさしてくれた方々に常に感謝の気持ちを忘れず過ごしていきたいと思う。学校の先生方、友達、一年間私のお世話をしてくださったホストファミリー、そしてこの留学に生かしてくれた親に感謝したい。この一年は自分にとってかけがえのない本当に素晴らしい貴重な時間であった。ありがとうございました。

☆ 西口君は2015年7月31日～2016年7月8日までザールブリュッケンに留学していました。留学前に半年ほどクーセギ先生のクラスで学び、帰国後も再びクーセギ先生のクラスでドイツ語の研鑽に励んでいます。

柘田先生受勲記念祝賀会の開催予定

7月号会報でもお知らせしましたが、柘田義一会長にドイツ政府功労十字勲章が授与されました。この事は、私達神戸日独協会会員にとっても大変名誉で、とても嬉しい出来事です。柘田先生の栄えある受章を会員の皆様と共にお祝いしたく、祝賀会準備世話人会で、柘田先生受勲記念祝賀会を、下記のように計画しております。

日時：2016年10月15日(土) 18:00—20:00

場所：神戸倶楽部

会員の皆様には、追って別便で詳細をご連絡致しますが、多くの方々のご参加をお待ちしております。

事務室からのお知らせ

協会事務室お盆休み閉室のお知らせ

神戸日独協会はお盆休みのため、8月10日(水)～8月16日(火)の間事務室を閉室いたします。なお、この間ドイツ語講座とドイツ文化教室もお休みになります。

Das Büro der JDG Kobe ist von 10. bis zum 16. August 2015 wegen der Sommerferien geschlossen.

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は9月8日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込×切 など
8月20日(土) 14:00～	第153回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
8月27日(土) 15:00～	シュタムティッシュ	神戸日独協会 会議室(19階)	8月26日(金)

